



# 青少年交流事業の推進 ～アメリカ・中国との交流を通じた次世代グローバル人材の育成～

福井県産業労働部国際経済課

## はじめに

福井県では、将来グローバルに活躍する人材を育成するため、青少年交流事業を積極的に進めています。最近では、県内中学生をアメリカの宇宙関連施設へ派遣する「青少年海外派遣交流事業」と、友好提携先である中国浙江省と相互に中学生を派遣し合う「福井県・浙江省青少年交流事業」を実施しました。

## 米宇宙関連施設への青少年海外派遣交流

福井県では、県内の高度なものづくり技術を生かした新しい産業を創出するため、県内企業が主体となって製造している「県民衛星」の打ち上げを2020年に予定しています。これに合わせ、国内最大規模の宇宙国際会議「第32回宇宙技術および科学の国際シンポジウム (ISTS) 福井大会」を誘致し、2019年6月15日から1週間にわたり世界25か国から1,071人の宇宙に関する研究者・技術者が集まり、研究発表などを行いました。

県民衛星プロジェクトおよびISTS福井大会へ向けた機運醸成、そして将来、宇宙分野でグローバルに活躍する人材を育成するため、2019年3月に県内の中学生をアメリカの宇宙関連施設へ派遣しました。



ISTS 福井大会の開会を宣言する地元の高校生ら

2019年3月19日から25日まで県内の中学生10人がアメリカを訪れ、NASA等宇宙関連施設の見学や

NASA職員、元宇宙飛行士、現地学生との交流を行いました。

フロリダ州のNASAケネディ宇宙センターでは、スペースシャトル「アトランティス」やアポロ計画に使用された世界最大のロケット「サターンV」の実物、ロケットの発射台などを間近で見学して、アメリカの宇宙開発の歴史や規模の大きさを実感しました。



ケネディ宇宙センターで「サターンV」を見学

## 参加学生による成果発表会

アメリカへの派遣事業に参加した学生たちは、学んだことをISTS福井大会の関連イベント「宇宙フェス in ふくい」で発表しました。

宇宙飛行士を目指す角井健悟さん（武生高校1年）は元宇宙飛行士との交流を通して「宇宙飛行士になるために必要なことは教育だと助言を受けた。宇宙飛行士になって



武生高校1年 角井 健悟さん

も勉強の連続であり、改めて勉学の必要性を実感した。夢を叶えるため努力したい」と意気込んでいました。

また、岩山<sup>あおい</sup>愛生さん（大飯中学3年）は「この派遣を通して、国際交流の大切さを知ることが出来た。国が違えば、文化も違い、人柄も大きく違うからこそ、他国の方と関わることで、その方の技術を学んだり、違う文化や考え方を知ることが出来、広い視野を持つことが出来ると学んだ。今まで以上に、さまざまなことについて考え、意見を持ち、発言する力、英語力、コミュニケーション能力を身に付け、将来に生かしていきたい」と話していました。

本事業を通して、将来を担う福井の子どもたちが宇宙科学技術への関心を高めるとともに、国際的な活動にチャレンジして、活躍できるグローバル人材を育成するという目的につながるものとなりました。

## 福井県・浙江省青少年交流

福井県と中国浙江省は、永平寺の開祖・道元が浙江省寧波市にある天童寺で修行していたことや、浙江省紹興市出身の文豪魯迅があわら市出身の藤野厳九郎と師弟関係にあったことから、1993年に友好提携を結びました。本事業は、友好提携20周年を契機に県内中学生が浙江省の中学生との交流などを通じて理解を深め合うことを目的としたもので、2015年から始まりました。

2019年は福井県側が派遣する年であり、8月5日から9日にかけて、第3期生となる県内中学生10人が浙江省に派遣されました。

浙江省に到着後、まず紹興市の中学校へ移動し、地元中学生と一緒にスポーツ交流や文化交流を行いました。

スポーツ交流では、5人ずつ2グループに分かれ、それぞれ交代でバドミントンと卓球をしました。文化交



バドミントン交流の様子

流では書道交流が行われ、一人ひとりが色紙に「率真」（誠実で率直であるという意味）と書き、お互いに交換しました。日本語が通じない中で、参加者は英語やジェスチャー、アプリなどを使って積極的にやり取りしていました。

学校交流後は各々がホームステイ先に宿泊し、ホストファミリーと交流を深めました。中には一緒に映画館に行き、中国で大ヒットしていた映画を見たという人もいました。

ホームステイの後は、市内にある魯迅故里を見学しました。ここには中国を代表する文豪・魯迅の生家や記念館があり、魯迅と交流の深かった福井県出身の医師・藤野厳九郎の銅像も設置されていました。見学を通して、福井県と浙江省の友好提携のきっかけともなった、魯迅と藤野先生との交流やその生涯について学びました。

続いて訪問した杭州市では、世界遺産である西湖や銭江新城市民センターを訪れました。日本とは異なる中国の景色や社会現状に触れ、理解を深めました。



魯迅故里にて

帰国後、福井県副知事への帰国報告会が行われ、参加者一人ひとりが楽しかったことや印象深かったことを発表しました。よく聞かれたのが「日本の文化との違いに驚いた」、「最初に持っていた中国のイメージと違っていった」という感想でした。日本で手に入る情報だけではわからない、実際の中国の文化や人々の様子は、中学生にとってとても印象深かったようです。中国に行く前に比べ、自分の意見をはっきり言うようになり、その成長ぶりはとてもたくましく見えました。

県では、今後もより多くの青少年が直接外国の社会や文化に触れ、一回り大きく成長できるような機会が得られるよう、引き続き派遣交流事業に取り組んでいく予定です。